

(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部通信 第21号 2009年6月

事務所：佐賀市水ヶ江4丁目2-2 TEL&FAX 0952-28-2077

e-mail [unicef-saga@ams.odn.ne.jp](mailto:unicef-saga@ams.odn.ne.jp)

URL <http://www.2.odn.jp/unicef-saga/>

§ § § 支部通信はホームページでもご覧いただけます

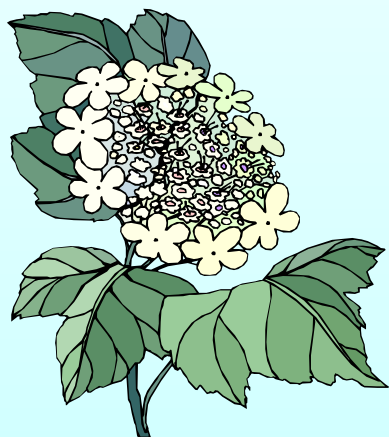
いつも心からのご支援をありがとうございます。

九州地方も梅雨入りしました。お元気でお過ごしでいらっしゃいますか？

佐賀平野の水田にも水が張られました。梅雨は命を育む大切な季節です。

水田の風景は稲の成長に伴って日々変化していきます。命の輝きが嬉しい季節でもあります。

水、それも安全な水が容易に手に入らない地域で暮らす人々の厳しい日々を思いを馳せながら、感謝の念でいっぱいになっています。



佐賀大学ボランティアのみなさん

有田陶器市会場：今右衛門古陶磁美術館前にて

2009年5月3日

## あれから 1 年、ミャンマーでは...

ミャンマー：サイクロン被害から 1 年 続く復興支援活動

【2009 年 5 月 1 日 ミャンマー発】



UNICEF/Myanmar/2008/Naing

被災後、ユニセフは、屋根用資材をクンギャンゴンへ送った。ユニセフの初期の支援活動は、臨時教室の設置と倒壊した学校の修復作業であった。



©unicef 再建された学校

2008 年 5 月 2 日から 3 日にかけてミャンマーを襲い、甚大な被害をもたらしたサイクロン「ナルギス (Nargis)」発生から 1 年が経ちました。被災者約 240 万人以上、その 4 割近くが子どもたちと推定され、その規模の大きさと地理的条件の厳しさから支援活動は難しいものとなりました。ナルギスが残した深い爪跡が残るミャンマーの子どもたちのために、ユニセフは支援活動を続けています。

昨年の 5 月、甚大な被害をもたらしたサイクロン「ナルギス」に襲われてから、子どもたちは心から安心して学業に臨むことはできませんでした。でも、この新しい学校は、そうした「安心感」とともに、かつて無かったような学校での新しい生活ももたらしてくれるはずです。

〔以前より良い環境を創る〕

「より良い学校再建」イニシアティブの元で再建されている他の 8 校と同様、この 6 月に開校予定のこの学校にも、図書室、校庭、校庭の外壁、職員室が整備されています。すべての学校に、飲料水やトイレが設置され、障害のある子どもたちも容易にアクセスできるような配慮がなされています。

新しい学校はまた、ミャンマーの伝統的な建築様式に基づきながら、現地で調達可能な材料を利用して暑さや騒音を軽減する新しい技術も導入されています。また、今後起こり得る災害に備えコミュニティの緊急避難所として利用できるようにもデザインされ、サイクロンや地震にも十分に耐えうるよう設計されました。ユニセフは、2010 年末までに、こうしたモデル校を 37 校建設する予定です。

〔学校再建がもたらすもう一つの希望〕

サイクロンによって、多くの人々の生活が崩壊しました。学校の再建作業は、こうした人々に仕事を得る貴重な機会も与えています。「一日 2,500 から 3,000 チャット稼ぐことができます。」地元の村人のウ・キャウ・モエさんは話します。「サイクロンで、野菜畑を失いました。節約して、学校建設の仕事で得た収入で、早く元の生活に戻りたいです。8 年生になる私の娘のように多くの優秀な子どもたちを生み出すこの学校を建設する手伝いができてとても光栄です。」

ユニセフはまた緊急支援の一環として、被災した 2,740 校の 60 パーセント近くに、学校用具、教育用教材、学習用教材、遊び場づくりのための資材などを提供しました。これにより、41 万人の小学校の子どもたちが恩恵を受けました。この支援により、学校閉鎖の期間が最小限に抑えられ、31 万 5,000 人の子どもたちが小学校に再び通うことができるようになりました。

さらに、ユニセフは「より良い学校再建」イニシアティブの一環として、教員 4,500 名に、子どもを主人公にした新たな教育アプローチの研修も実施しています。ユニセフの復興支援活動は順調に進んでいます。みなさまのご協力により、2008 年 11 月 21 日現在までに 605 万ドル (約 6 億 3460 万円) の支援金を拠出することができました。ご支援に心から感謝申し上げます。〔資料提供：日本ユニセフ協会〕

## あれから 1 年、中国では...

中国：大地震発生から 1 年—子ども達を学校に戻そう—【2009 年 5 月 21 日 (財)日本ユニセフ協会】



© UNICEF

ユニセフから提供された（図書館の）本を読む子ども達の横で、ユニセフが提供するスポーツキットを受け取るために列を作って並ぶ子ども達。



© UNICEF

韶関市高揚小学校で休み時間に手を洗う子ども達。

2008 年 5 月 12 日に、中国四川省などを襲った大地震。発生時間が授業時間中に重なったため、学校の倒壊などにより、多くの子どもたちの命が失われました。

「地震が起きたとき、私たちは教室で授業を受けていました。突然、教室が揺れはじめ、私たちは急いで教室から逃げ出しました。」と 6 年生の楊梅さんは説明してくれました。今回の大地震により、甘肅省韶関市だけで 300 の校舎が被害を受けました。楊梅さんの通っていた高揚小学校も地震により校舎が崩壊しました。さらに甘肅省では、6,000 校が地震により崩れました。

2008 年 10 月、生徒達はユニセフの提供によってできたプレハブの教室に移動しました。「新しい教室は広く、テントより明るくなりました。」「あたらしい、椅子や机、本、スクールバッグ、そして一人一人に衛生キットが配られました。中には、歯ブラシ、歯磨き、シャンプー、石鹸、タオルが入っていました。私のお気に入り、新しいスクールバッグ。中には、辞書やペン、ノートが入っています。」

[清潔で安全な水]

質の高い教育へのアクセスの回復に加えて、ユニセフは高揚小学校での水と衛生施設を整える活動を行っています。地震によって給水設備が壊され、子ども達を含む村の人々は上水処理されていない自然の川に水を汲みに出かけ、屋根の上やビニールシートに溜まった水を集めています。ほとんどの学校は地震以前も給水施設やトイレがありませんでした。地震の被害から 1 年、今では、高揚小学校の校舎の近くに手洗い場をかねた給水施設が建設されています。男の子と女の子のために別々のトイレも建設中です。

ユニセフの支援によるこれらの水と衛生施設は数ヶ月で完成する予定です。

2009 年 3 月、中国政府は、2009 年末までに、被災地の子どもたちの 95%以上が再建された校舎での授業を再開できるように、作業を進めていると発表しました。ユニセフは、新たに建設される校舎が耐震に十分配慮された構造となるだけでなく、学校を拠点にしたコミュニティの防災対策が整えられるよう、中国政府の専門家と日本の学校防災関係者との技術交流をサポートしました。また中国国営テレビを通じた学校防災キャンペーンも展開しています。

最初の大地震から 1 年が過ぎ、ユニセフの支援は、いわゆる「緊急支援活動」から「復興・再建支援活動」に移行しています。震災を経験した人々の生活とコミュニティを立て直すためには、まだまだやらなければならないことが山積しています。ユニセフは、大地震の影響を受けた人々のための復興支援活動を、あと 2 年間は継続する予定です。みなさまのご協力により、現在までに 231 万ドル（約 2 億 3309 万円）の支援金を拠出することができました。ご支援に心から感謝申し上げます。

[資料提供：日本ユニセフ協会]

# 活動報告

## 募金贈呈式

3月7日（土） 佐賀市大和町 北部児童センター



- ◆ 北部児童センターの皆さんは、2月14日の「子どもまつり」でフリーマーケットを開催しました。地域の皆さまからお寄せいただいた品物を販売し、売上げの一部をみんなで相談して「ユニセフに寄付しよう」と決められました。フリーマーケットのお客様は606人だったそうで、「僕たちがフリーマーケットで頑張ったお金です。世界の子どもたちのために使ってください。」と代表の方から手渡されました。
- ◆ フリーマーケット係りのお話  
たくさんのお客さんが買ってくれて品物がお金になるときは嬉しかったです。このお金でたくさんの子どもたちが助かるのでよかったですと思いました。

## 出前授業

「世界一参加したい授業のおまつり」 ～体験して理解できる新しい出会い～

3月8日（日） 佐賀市どん3の森 アバンセ

- ◆ 「アバンセ」と「地球市民の会」の共催による「世界一参加したい授業のおまつり」で出前講座を実施しました。県内33の団体や個人による様々な講座があり、2,700人の来場者で賑わいました。ユニセフの講座にも唐津市からの中学生グループや、小学生から大人まで幅広い年齢層の多くの参加がありました。

### 第1部 これは、なあに？ どうしてつかうの？

- ◆ 子どもたちの命を守るために、ユニセフの現場で使われているORS（経口補水塩）・ビタミンA・ヨウ素添加塩・カンボジアのデング熱予防パンフレット・マラリア予防用の蚊帳・ネパールの母親学級啓発紙芝居・プランピーナッツなどを展示しました。

### 第2部 ワークショップ「水とトイレと子どものいのち」

- ① クイズ「水とトイレ、知ってるつもり」
- ② ユニセフすごろく「いのちを守る水」
- ③ 「メジナ虫病」ってなあに？

### 参加者の声（アンケートより）

- ◆ 水やトイレについて知らなかったことがたくさんありました。安全な飲料水が地球上にはほんの僅かしかなく、それを豊かに使っている私たちとそうではない人々の差を思い知らされました。自分の水の使い方についても、もう少し考え直さなければいけませんね。
- ◆ 個人や家族、自分の住む国という視点だけではなく、地球に生きる人間という気持ちで色々なことを見なくてはいけないと思いました。



**出前授業** 3月11日(水) 柳川市立豊原小学校5年生

テーマ：いのちを守る水、いのちを奪う水

- ◆ 5年生の皆さんは道徳の時間に「世界の子どもたちのいのち」について考え話し合いました。世界には安全な飲み水を得ることができなくていのちを落とす子どもたちが大勢いることを知り、同じ地球に生きる友だちとして自分との係わりについて考えました。
- ◆ 5年生の皆さんは2学期に体験活動として地域の朝市でお店を出しました。自分たちで育てた大根や農家の方から仕入れた野菜等を朝市で売り、売上げの一部を「世界の子どもたちへ」と、託されました。この募金は、例えば、下痢による脱水症から命を救うORS(経口補水塩)約1,700袋分にもあたり、たくさんの子どもたちのいのちを守ることができることを知り、自分たちの活動が世界の子どもたちのいのちを守ることにつながることを知りました。

**学習を終えて**

- ◆ 私は、毎日何も考えないで当たり前のように水を使っていました。地球上の使える水はほんの少ししかないので、自分にできることは、水を大切にすることだと思います。
- ◆ 水に恵まれないところでは、子どもたちが毎日あんなに重い水を運んで学校に行く時間もないから大変だろうなあと思いました。自分にできることは、募金があっていたら協力したいと思いました。



**出前授業** 3月11日(水) 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク 千代田中部小学校

テーマ：水から世界を考えよう

- ◆ 神崎市子どもの居場所づくり実行委員会では、国の委託を受けて神崎市内の7小学校や公民館で、放課後や週末にいろいろな体験活動、世代間交流ができる居場所づくりを進めています。
- ◆ 千代田中部小学校ドリームパークの子どもたちは、「水から世界を考えよう」というテーマで学習しました。「みず・ミズ・水」クイズで、水に限られた資源であることを知ったり、すごろくゲーム「いのちを守る水」で井戸が出来るまでを追体験したりしました。また、世界の子どもたちがどのようにして水を手にしているかを画像で見た後、ネパールの水がめを使っての水運び体験をしました。

**学習を終えて**

- ◆ 世界には水がなくて困っている子どもたちがたくさんいる。ぼくは、水をのむときにコップにいっぱい水を入れないで、のめるぶんだけつぐようにします。今までいっぱいついで、のめない水をすてていました。



## 愛の募金贈呈式 J A 佐賀県女性組織協議会

3月17日(火) 佐賀新聞社にて



- ◆ J A 佐賀県女性組織協議会では、昭和 54 年の国際児童年を契機に毎年「愛の募金」活動に取り組まれています。「愛の募金」活動は今年度で 30 年になり、これまでユニセフと佐賀県内の各施設に、ご協力くださった皆様の善意を届けておられます。今年も「世界の子どもたちの幸せのために役立ててください」と 120,707 円の募金を、JA 佐賀県女性組織協議会藤木智恵子会長様より、日本ユニセフ協会佐賀県支部中尾会長に贈呈されました。

## ユニセフパネル展

4月19日(日) 第24回花みずき茶会にて (佐賀市金立山いこいの広場)

- ◆ 新緑したたる金立山いこいの広場に緋毛氈を敷き、チャリティー茶会「第 24 回花みずき茶会～平和への祈りをこめて～」が開催されました。主宰の岩橋宗厚先生は、毎年ユニセフや国際ソロプチミストを通して、困難な状況下にある子どもたちへの支援を続けておられます。
- ◆ 待合にパネル「ユニセフの願い」を展示し、お席をお待ちのお客様にユニセフの活動の様子をご覧いただきました。



## 有田陶器市ユニセフグッズの頒布&募金活動

5月3日(土) 今右衛門古陶磁美術館前にて (有田町赤絵町)

- ◆ 朝から薄曇りの絶好の陶器市日和、全国各地からのお客様 23 万人の人出で賑わう有田陶器市会場の中ほどにある今右衛門、古陶磁美術館前で、募金活動とユニセフグッズの頒布を行いました。
- ◆ 佐賀大学・西九州大学の学生さん、福岡市や大野城市・吉井町など遠方から早朝 4 時起きで応援にきてくださった方など総勢 23 名のボランティアさんが、大きな声でユニセフ募金や、グッズへのご協力を呼びかけました。
- ◆ 「今、世界では 3 秒に 1 人の割合で子どもたちの命が失われています。子どもの命を守るためユニセフ募金にご協力をお願いしま〜す!」「20 円で 1 年分のビタミン A を 10 人の子どもたちにおくることができま〜す。」と声をからしてのお願いをしました。有田陶器市においてになった沢山の皆さまのご協力をいただいて、208,251 円ものユニセフ募金となりました。ありがとうございました。



## イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」贈呈式

5月9日（土） ジャスコ佐賀大和店



- ◆ イオン九州株式会社様は、地域への社会貢献活動の一環として、「幸せの黄色いレシートキャンペーン」日に、お客様が登録された団体のボックスに黄色いレシートを入れていただき、総額の1%をその団体にイオンギフトカードとして贈る取り組みをされています。2008年度分として12,500円分のギフトカードの贈呈がありました。ご

のお気持ちをユニセフ募金とさせていただきます。ありがとうございました。

5月17日（土）午後2時～3時

## 第16回ユニセフバザー“マラリアから子ども達を守ろう”

佐賀玉屋デパート南館西側アーケードにて



- ◆ 今年はバザー品の集まりが少なく開催が危ぶまれましたが終盤になって、「チラシで知った。このようなことに協力したかった。」と宅急便で送ってくださった方、「インターネットで知った。役立たせてください。」と関西から送ってくださった方、「この時期は年に一度の七夕様のような行事になりました。」と品物の提供をお知らせくださった方、社員の皆様に呼びかけて協力してくださった企業様など多くの皆様のご支援で400点余りのバザー品が寄せられました。また、「新聞でバザーのお手伝い募集を知ったので。」と鳥栖市から売り子さんに来てくださった高校生もいらっしゃいました。
- ◆ 雨の中、9時からの値付け作業にベトナムやマダガスカルからの留学生さんもボランティアとして駆けつけて、仕分けやお客様がお求め安くなお且つ1円でも多くの募金になるようにしたいと相談しながら楽しくすすめてくださいました。
- ◆ 「世界では30秒に一人の割合で子どもたちがマラリアで命を落としています。マラリア予防に有効な方法は蚊帳を使うことです。今年はマラリア予防用の蚊帳300張りにあたる分の募金を目標にしています。皆様のご協力をお願いします！」とお客様に呼びかけました。
- ◆ バザーの総額は102,841円となりました。バザー品をご提供くださった皆様、仕分け・値付け・販売など色々な形でお手伝いくださったボランティアの皆様、そして雨にもかかわらずお買い物に来てくださった多くのお客様、会場をご提供くださった佐賀玉屋デパート様、すべての皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

**(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部役員会**

**5月23日(土) 佐賀新聞社 会議室にて**



第11回理事会・第6回評議員会を佐賀新聞社会議室にて開催いたしました。今年はいくまでになくたくさんの役員の皆様のご参加をいただきました。2008年度の事業ならびに決算を承認していただき2009年度の活動計画、予算等について活発に協議され、大変建設的なご意見を多くいただきました。本年度は支部設立5周年にもあたり、役員の皆様方の更なるお力添えもお願いしました。

**ユニセフグッズ頒布&ユニセフ募金**

**6月7日(日)**

**第25回鹿島ガタリンピック会場にて**

**(鹿島市七浦海浜スポーツ公園)**

- ◆ 鹿島ガタリンピックも25回目の開催となり、すっかり有明海干潟の初夏のイベントとして定着し、全国的に紹介されるようになりました。今年は14ヶ国からの参加があり、1,600人の選手が「人間ムツゴロウ」になって競技を繰り広げました。テーマは「干潟にはまればG遊人～しょっぱいけれどクリーミー～」。会場は35,000人の観客で、大変賑わいました。
- ◆ 地元、西部中学校のユニセフボランティアの皆さんは、ユニセフの青い募金箱を持って会場をまわり、募金協力を呼びかけました。観客の皆さまからご協力いただいた募金は33,260円にもなりました。ご支援ご協力いただいた全ての皆さまに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



#### 鹿島ガタリンピックってなあに？

日本一干満の差が大きい(6M) 広大な有明海の干潟を利用した、干潟の上で行う運動会がガタリンピック・ゲームです。昭和60年5月3日、第一回鹿島ガタリンピックが開催されました。

今まで、誰もが見向きもしなかった干潟を「負」の財産から、地域の貴重な財産へと活用しました(逆転の発想)。そして、この干潟は日本でも珍しく、また、『鹿島』という地域の個性を表すことができたのです。

(フォーラム鹿島・ガタリンピック実行委員会HPより抜粋)



## ユニセフ講演会 ラオス・スタディーツアー報告 ～売買される子どもたち～

期 日 : 6月13日(土)  
会 場 : アバンセ4F第2研修室Aにて  
講 師 : 佐伯律子さん



### \* プロフィール

日本ユニセフ協会展示ボランティア・日本ユニセフ川県支部学習講師ボランティア・ネパールの女性教師を育てるプロジェクトで活動中。

- \* 日本ユニセフ協会神奈川県支部では、**2005**年の支部設立時から『ラオスの子どもたちを人身売買の被害から守るためのプロジェクト』を展開中。佐伯さんはラオスの子どもたちの現状と人身売買被害の状況を知るために、**2008年10月26日**から**11月2日**まで、ラオス人民民主共和国を訪問。そこで見聞きし、感じたことを具体的な事例をもとにお話いただきました。

### 講演要旨

#### I. ラオス人民民主共和国



- 面積 **24**万平方キロメートル（日本の本州とほぼ同じ）
- 人口 約**580**万人（**18**歳以下 約**268**万人）
- 中国、ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムと国境を接する。
- ラオス全**17**県中、**16**県が他国との国境に接している。
- 何世代にもわたり、人々は国境間を往来してきた。（生活の一部として根付いている。）
- 全人口の**73%**は農村部に住む。
- 首都はビエンチャン

#### II. ラオスの基本統計

義務教育：小学5年生まで

初等教育純就学率	男 <b>86%</b>	女 <b>81%</b>
初等教育純出席率	男 <b>81%</b>	女 <b>77%</b>
第5学年在学率	全体 <b>63%</b>	
中等教育就学率	男 <b>41%</b> ( <b>40%</b> )	女 <b>35%</b> ( <b>33%</b> )
5歳未満児死亡率	<b>1000</b> 人中 <b>75</b> 人 ( <b>50</b> 位)	日本 <b>1000</b> 人中 <b>4</b> 人
改善された水源の利用	全国 <b>51%</b>	
適切な衛生施設の利用	全国 <b>30%</b>	
一人あたりのGNI	<b>US\$ 500</b>	

### Ⅲ. 移住と人身売買

- ・世界で毎年、約 **120** 万人の子どもたちが人身売買の被害にあっているといわれている。東南アジア、太平洋地域では **30～40** 万人といわれている。
- ・ラオスの大半の移住先はタイ…その理由は？
  - ① ラオスの **17** 県中、**10** 県がタイとの国境に接している。
  - ② タイへの不法入国は比較的容易
  - ③ タイとラオスは言語と文化の共通点が多い。
  - ④ 国内における就労機会が限られている。(特に義務教育を修了した時点…**12** 歳から **15** 歳において)
  - ⑤ タイでは特殊技術を必要としない労働機会が多い。
  - ⑥ タイのマスメディア (特にテレビ) の影響によってタイの消費社会に憧れを抱く若者が少なくない。
  - ⑦ 商人が多く国境を往来しており、人々のタイへの興味を促している。
- \* 顔見知りの女性が「いい仕事があるから」と言って子どもを連れていく。親が畑仕事をしている間にいつの間にか子どもがいなくなる。
- \* ナンバー郡フォンシャン村には **13** 歳～**18** 歳ぐらいの子どもが **80** 人いるが、そのうち実際に人身売買の被害にあっている子どもが **34** 人いて、まだ村に戻っていない子どもが **15** 人いる。

### Ⅳ. ユニセフが支援をしている子どもの保護ネットワーク (C P N) 2004 年からスタート

- ・ **5** 県 (**15** 郡 **75** 村) において C P N を設立し、児童保護活動の一環として、安全な移住と人身売買防止を促進している。
- ・ 子どもの保護ネットワーク (C P N) は、暴力・人身売買・および性的搾取から児童を保護するための、村レベルと中央レベルを結ぶネットワークを築くことを目的としている。
- ・ 5 つの対象地域 (4 州・1 特別区)
  - ① ポケオ県
  - ② ウドムサイ県
  - ③ ビエンチャン県
  - ④ ビエンチャン特別市
  - ⑤ サワンナケート県
  - ⑥ チャンバサック県



人身売買被害者のための「緊急連絡先カード」  
このカードで救われた子どももたくさんいる。

### Ⅴ. 「フレンズインターナショナル」ストリートチルドレンセンター (2004 年設立)

- ・ 路上で生活する子どもたちは人身売買の被害にあう可能性が高い。 ・ 対象年齢 **0** 歳～**25** 歳
  - ① ストリートチルドレンの調査
  - ② 子どもを守る
  - ③ 学校へ行かせる
  - ④ 職業訓練—自立への道 「調理師」「織物」「縫製技術ミシン」「美容師」など



人身売買の被害にあった後、保護され、心のケアと職業訓練を受け自分で織った布。  
将来の夢は「服を作ること」



アートセラピー  
被害にあった子どもの絵

VI. 「AFESIP」: CPN プロジェクトとしてユニセフのパートナーであるアフエシップ「被害者を助ける会」では、とく女の子の人身売買の被害に巻き込まれているに子どもたちを保護し、心身を回復するまでの総合的なケアをし、技術訓練をして経済的自立を図り地域社会に復帰できるようにしている。

#### 救出事例

- ・ ナンバ郡フォンシャン村出身の少女は **14 歳** のときラオス国内の南部に連れてこられ店で働かされた。だまされたと気づき店にきた調査員から渡された緊急連絡カードを見て助けを求めた。現在 **17 歳**、精神的ケアを受けたあと、今は自立するために職業訓練センターで縫製を学んでいる。
- ・ ナンバ郡フォンシャン村で人身売買の被害にあったとても悲しい最悪のケースはメコン川を渡ってタイに連れていかれマッサージの仕事させられた少女。HIV/エイズにかかってしまい **8 ヶ月** 働いてもらったわずかな給料を全部とられて無一文で故郷に帰され、治療ができないまま亡くなってしまった。

#### VII. 終わりに

- ・ ラオスからタイへの移住及び児童売買に関するデータは現在限られている。
- ・ 不法移住者はその非合法的な立場のため、人身売買、さらに労働搾取もしくは性搾取の危機にさらされている。
- ・ とくに若い女の子の働く機会がなかなか得られないラオスでは、紹介人の「ラオスの首都ビエンチエンやタイに行けばいい働き口がある」という甘い言葉についのせられてついていってしまう。二度とあのような生活はしたくないと訴える被害にあった少女たち。もどってきてもなかなかすぐにはいい仕事を見つけれないでいる。子どもたちを取り巻く環境が改善され、このような悲しいことがラオスの子どもたちに起こらないように…。勇気を持ってつらい思いを話してくれた彼女たちの思いを無駄にしないためにも、この事実を知った私たちは深く心にとめなくてはいけないと感じた。

## Let's unicef ⑮

田形祐樹さん（弁護士法人いまり法律事務所）



私は、2006年10月から2007年12月にかけて、アジアの20カ国を旅した。どこの国でも、子どもは元気いっぱい。旅人の私と、構えずにつきあってくれて、そして笑顔で遊んでくれた。学校に通う子どもは、学べることが、とてもうれしそうだった。そして、同じ子ども同士で、遊ぶのが、とても楽しそうだった。

しかし、経済的には裕福ではない国も多い。学校に通えず、飲食店などで働いている小さい子どもをみることも多く、胸が痛んだ。また、学校に通っても、子どもにノートやペンが十分でない国もあった。そういう学校を見て、現地でペンなどを買ってきて、私が寄附すると、先生や生徒に、とても喜んでくれた。



ラオスの学校前で。先生と生徒と一緒に。

(著者は左端)

このような子どもたちに少しでも役に立てないだろうか、他に方法はないだろうか・・・と考えていたところ、旅の途中で、北京で働くユニセフ職員の人と出会った。彼女の話聞いて、ユニセフの活動を詳しく知った。そう、日本に帰ってきたら、現物を寄附するのは難しいけれども、世界の子どもたちをサポートするユニセフに寄附すれば、世界の子どもたちに、少しは喜んでもらえるのではないかな。

またいつか、アジア各国の笑顔の子どもたちに会いに行きたい。それまでは、日本で、そうした子どもたちのために、自分なりにできることをしていきたいと思っている。

## ご支援ありがとうございました

成和小学校様 上峰小学校様 諸富北小学校様 北部児童センター様 J A佐賀県女性組織協議会様  
大溝小学校様 豊原小学校様 呼子小学校様 不二家佐賀店様 ボーイスカウト有田第一団様  
花みずき茶会様 吉原内科様 コープさが生活協同組合様 中原小学校様 城東中学校様

ホンダパーツ西南様 佐賀リハビリテーション病院様 メイア様 千代田中部小学校様 副島病院様  
神崎市ドリームパーク様 東通西日本様 武生西公民館様 雇用能力開発機構佐賀センター様  
佐賀清和中学校 三日月小学校様 大塚製薬佐賀工場様 大町中学校様 木室小学校様  
損保ジャパン佐賀様 佐賀市民活動プラザ様 佐賀大学スーパーネット様 佐賀大学医学部様  
ファイザー株式会社佐賀営業所様 到津の森公園ボランティア「森の仲間たち」様 サニーハウス様  
ようどう館佐賀校様 ようどう館大和校様 すぎの子文庫様 黒川カイセイ薬局様 小野商店様  
カイセイ薬局荒江店様 武井電機様

(2009年2月21日～6月19日)

★ いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。個人のみなさまからもたくさんのご支援をいただいておりますが、平成17年4月1日からの「個人情報の保護に関する法律」施行に伴い、個人の方のお名前の掲載は控えさせていただきます。

### これからの予定



6月30日(火) コープさがネパール募金贈呈式  
7月1日(水) 出前授業 雲仙市立吾妻中学校  
7月3日(金) 出前授業 佐賀市立嘉瀬小学校  
7月22日(水) 生協連平和のつどい パネル展&グッズ頒布  
9月13日(日) さが国際ふれあいフェスタ 2009 パネル展&グッズ頒布  
9月26日(土) ユニセフのつどい「100人でする100人村 in 佐賀」  
詳しくは、同封のチラシをご覧ください!!